

終章

本学は「教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献すること」を目的としている。この目的を達成するため、大谷大学第1次中長期プラン「グランドデザイン（2012－2021）」の下に様々な変革を行ってきた。例えば、2018年度より文学部に社会学部と教育学部を加えた3学部体制へ、2021年度からは国際学部を加えた4学部体制へと改組した。研究科においては、2022年度から4学部の各学問分野を包括する研究科名称となるように、人文学研究科へ名称変更することが決定している。これらの改組と同時に、教育機関としての質を担保するべく、大学基準協会の定める10の基準に従って点検・評価活動を行ってきた。

このように、かつての1学部体制から現在の4学部体制をとったことで、より広い視点からの教育を展開していることを学内だけでなく、学外にも周知できるようになった。加えて、本学の研究科での教育・研究を更に充実化する取組を行っており、いっそう幅広い層に本学の取組を知ってもらうことが期待できる。さらに本学では、正課の教育改善に加え、建学の理念に基づく教育を全学的に具現化して展開するために仏教教育センターを2018年度に設置するなど、正課外でも自由に利用できる各種学習支援施設を設置してきた。各組織が有機的に連携することで、本学の理念の実現に向けた更なる歩みを着実に進めることができると期待している。

2021年度の自己点検・評価結果から、本学は大筋において十分な教育の質を担保できていると自負している。第1章で既述した大谷大学第2次中長期プラン「グランドビジョン130（2022～2031）」（以下、「グランドビジョン130」）は、“「Be Real—寄りそう知性—」の発揮に向けた、学び空間の創生”を目指している。「グランドビジョン130」は本学の魅力を更に発展させていくためのビジョンであり、その達成に向けての取組を実施する中で、今回の自己点検・評価結果から見えてきた課題の解決もできると考えている。

「グランドビジョン130」は、教育・学生支援・研究・社会連携・管理運営の5つの部門方針の下、それぞれで重点施策を策定している。なお、教育部門は大学教育全体、各学部と研究科、及び学生の受入れに中分類した上で、重点施策を策定している。例えば、教育部門の大学教育全体では、重点施策の1つとして「総合的な学習支援体制の構築と関連諸施設の連携強化」を挙げている。これにより、既存の学習支援組織体系のスリム化や関係性の強化が可能となる。また、大学院では、「汎用的（トランスファラブル）な力をもった知のプロフェッショナルの育成」、「専門分野を超えた横断的な教育環境の構築」、「大学教員をめざす博士後期課程学生のキャリア支援」の3つを重点施策として立てている。これらの重点施策は、大学院の教育をより魅力のあるものにするとともにその内容を様々な層に伝えることにある。そうすることで、本学大学院の教育及び研究の場としての魅力を継続して発信することが可能になる。

本学の理念は、仏教精神に則った人格の育成である。本学の求める仏教精神に則った人格とは、人間とは何かという問いを生涯追究する態度といえる。その問いは学術的な研究にとどまるのではなく、様々な実践をとおして追究されるべきものである。大学という限られた時間や環境の中で、この仏教精神に則った人格の基礎を学生が形成できるように本

学は努力を重ねてきた。今後も多様な価値観を持つ存在が互いに敬愛しながら、真実を問い続ける学びの場の創生に邁進していくことで、そうした人格形成の礎となるべく努力し続けることを誓う。